逆接の確定条件、

　　或いはいつかの

　　パラドックス

伊藤貴晴　作

【登場人物】

女１

女２

女３

女４

女５

女６

【１】

 女１、登場。

女１ これから私の夏休みの話をします。私の夏休みは毎年あるけど、高校２年生の夏休みは人生で１回しかないわけで、一生に１度の記念すべき夏休みを私は一体どんな風に過ごしたのかというと、という感じで話し始めると、さぞかしメモリアルなバケーションだったのだろうと思うかもしれないけど、別にそういうわけではないかもしれないわけで、だって夏休みは毎年あるし、毎年そんな特別なことがあるわけじゃないし、何なら小学生の頃の方が初めての体験が多くて思い出に残る特別な夏休みだったりするわけで、今更高校２年生の夏休みにスペシャルな何かを期待しても、それは今更手遅れというか、それを期待するには日頃の行いが足りないというか、心がけ次第というか、待ってないで自らムーブメントを起こさなきゃいけないってことは分かってるつもりなんだけど、だから、明日から始まる夏休みに私は少しだけ期待することにした。スペシャルな何かを期待するんじゃなくて、動き出す私自身に期待する、という心がけ。そう、私の高校２年生の夏休みは、これから始まる。こうやって物語を語るときは、既に起こったことを語るのが普通で、でも私はまだ起こってないことを語ろうとしていて、まだ起こってないことを語るなんて、これは画期的だと自画自賛して、まだ起こってないことを語る矛盾には目を瞑って、夜も更けていくのに目をぱっちり開いて、私はムーブメントを起こそうとしている。「未（いま）だ来（き）たらず」と書いて「未来」と読む。でも私はその、まだ来ない不確定な未来の中身を確定させるという画期的な方法を思いついてしまった。それは、未来に起こることをあらかじめ日記に書いておくという、未来日記という方法。もちろんマンガや小説みたいに、書いたらその通りになんかなるわけじゃない。だから、日記に書いた通りに私が行動すればオッケー。これがうまくいくかどうかは分からないし、多分うまくいかないと思うし、だったらそんなことするなよって思うかもしれないけど、結果じゃなくて過程が大事なのであって、トライしたという事実が大事なのであって、それもまたいい思い出というか、頑張った自分をほめてあげたいというか、まだ始まってもないのに何言ってんだって感じで、捕らぬ狸の皮算用で鼎（かなえ）の軽重（けいちょう）を問うてみたりみなかったり。つまり私の計画とは、シュレーディンガーな未来をあえてあらかじめ定めることで一体何が起こるのかという実験的なものであり、スペシャルな何かを目指した私の精一杯のムーブメントなのだと思う。というわけで、私の夏休み、始まり

【２】

 女１の部屋。

 女１～５がいる。

女１ 今日から夏休みが始まりました

女３ いえーい

女２ 暑ーい

女５ お腹空いた

女１ 高校２年生の夏休みは人生で１回だけ

女２ そうだね

女３ でも留年すればもう１回

女１ 一生に１度しかない夏休みを特別な体験に

女３ そうだね

女２ テーマパークのＣＭみたい

女５ お腹空いた

女１ 特別な夏休みを最高の思い出にしよう

女３ おー

女１ スペシャルなメモリアルを

女３ おー

女２ 何でそんなに盛り上がってるの？

女１ 今年の夏休みは一味違う

女５ どんな味なの？

女２ どんな質問だよ

女１ 甘酸っぱい青春の味

女５ 甘辛い八丁味噌の味

女２ そんな青春いらねえよ

女５ 味噌煮込みうどん食べたい

女１ 今年の私は一味違う

女５ どんな味？

女２ もうその質問をするな

女１ 夏休みの宿題は最初に終わらせる

女２ え？

女３ え？

女１ 何？

女３ 女１、去年は全然宿題なんかやらなかったじゃない

女１ それはもう過去の私

女３ 女１、追い込まれた方が宿題が捗るって言ってたじゃない

女２ 言ってた

女３ 女１、追い込まれるのが快感だって、宿題は最終日にやるべきだって言ってたじゃない

女１ そんなこと言ってないよ

女２ 言ってたよ

女１ そんなの、私がドＭの変態みたいじゃない

女３ それが女１のいいところでしょ

女１ そうなの？　「あなたの長所は何ですか？」「私の長所はマゾヒスティックなところです。」って言うのちょっと恥ずかしいんだけど

女２ 否定はしないんだ

女１ ちょっと、女５、何やってるの？

女５ カップ麺探してるの

女１ 何で女子高生の部屋でカップ麺漁ってるの。ないよ、そんなの

女５ （歌う）探し物は何ですか〔※１〕。チョコ発見

女１ 私のチョコ

 女６（母）、登場。

女６ みんな、いらっしゃい

女２・３・５ こんにちは

女１ お母さん、勝手に入って来ないでよ

女６ 草餅あげようと思って

女５ ありがとうございます

女６ あと、ほらこれ、ペヤング〔※２〕

女５ ペヤングだ

女６ カップ麺探してたの？

女１ 聞いてたの？

女６ たとえマゾでも、あんたは私の娘だよ

女１ 何で聞いてるの

女６ あんな大きい声で喋ってたら聞こえるよ

女５ あの、お母さん

女６ 何？

女５ このペヤング、お湯が入ってないんですけど

女６ ああ、そうだね。入ってないね

女５ さすがにお湯なしじゃ食べられないんですけど

女６ じゃあ私が食べるね

女５ あ、くれないんですね

女６ 草餅食べなさい。ゆっくりしていってね

女２・３・５ ありがとうございます

 女６、退場。

 みんなは草餅を食べる。

女１ もう私は変わったの。去年の私と同じにしないで

女３ あの頃の女１にはもう会えないんだね

女５ 草餅うめー

女２ で、女１はどうして宿題やる気になったの？

女１ 宿題を先に終わらせたら、残りの夏休みは何の心配もなく全力で遊べるじゃない。それに、あわててやるより計画的に取り組んだ方が学習効果も高まるんだよ

女２ 正しいことを言われてるだけなのに、すげえ腹立つ

女３ 正論は人を傷つけるから

女２ ま、いいや。今年は女１の宿題を手伝わなくていいってことだよね

女１ え？　女２、宿題は手伝うんだよ？

女２ え？

女１ 宿題をやる時期が早いだけで、宿題をやることには変わりないでしょ。だから手伝うんだよ、女２

女２ 何で手伝うの？

女１ 女２、友達でしょ

女２ お前は友達を何だと思ってるんだ

女１ 宿題をやってくれる人

女２ 宿題は自分でやれ

女３ じゃあみんなで宿題やろう

女１ いえーい

女２ まあいいけどさ。宿題やろうと思って持って来たから

女３ 私も

女１ 一蓮托生だね

女２ せめて以心伝心って言え

女１ そんなわけで、私はもう、１つ目の宿題を終わらせました

女２ え、もう？

女３ 早い

女２ 何やったの？

女１ 日記

女３ 日記？

女１ 夏休みの日記

女２ ちょっと待って

女１ 何？

女２ 確かに、夏休みの日記っていう宿題はあるよ。小学生かよって思うけど、先生に「生活の乱れは心の乱れです。毎日の生活記録をつけなさい。」って言われたよ。でも、日記というのは、その日にあったことを記録するものであって、先にやるものではない

女１ じゃあ、いつやるの？

女２ 毎日

女１ 私、そういうの向いてない

女２ 向いてないって何だよ

女１ できないの。やりたくないの。だから最終日に、夏休みにあったことを全部思い出して、思い出せないところは適当に捏造して架空の日記を作成した去年の反省を生かして、今年は先に捏造することにしたの

女２ 日記を捏造するな

女３ さすが女１だね。普通の人にはできない発想だよ

女１ すごいでしょ

女２ 事実と違っちゃうでしょ

女１ 大丈夫。その通りに行動すればいいんだから

女２ え？

女１ 日記に書いたとおりに毎日を過ごせばいいんだよ

女２ それはそう、なのか？

女３ 未来日記だね

女２ 女４、どう思う？

女４ 別に

女２ 女４、淡泊だな

女４ うん

女３ 女１、どんなこと書いたの？

女１ え？

女３ 誰かと恋に落ちるとか書いたの？

女１ 書いてないよ

女３ 何で書いてないの？

女１ そういうのはいいよ

女３ ラブロマンスは？

女１ 女３、そういうの好きだね

女３ 女１は？

女１ 好き

女２ 実現できることを書かなきゃダメなんじゃない？

女３ それを頑張って実現するんだよ。ね？

女１ え？

女３ 夢と魔法の世界みたいなのがいいよね

女２ どこのテーマパークだよ

女５ ペヤング食べたかったな

女２ 女５、よく食べるね

女３ 女１、日記見せて

女１ え？

女２ どんなの書いたの？　３０日後に死ぬとか書いたの？

女１ 書いてないよ。死なないよ

女３ 昔そういうの流行ったよね〔※３〕

女２ 見せて

女１ 嫌だ

女２ どうして？

女１ 何か、怒られる気がする

女２ 何で人の日記見て怒るんだよ

 日記を見る。

女２ 「朝、起きて、顔を洗って、ごはんを食べた。」当たり前だろ。何だこれ

女１ ほら怒られた

女２ そりゃ怒るよ。こんなの日記に書くことじゃないでしょ

女１ 書いてもいいでしょ

女３ おもしろくない

女１ 日記におもしろさを求めないでよ

女２ だったら未来日記なんか書くな

女３ おもしろいのがいい

女２ 「宝くじが当たって焼肉食べ放題。」嘘をつくな

女１ 嘘かどうか分かんないでしょ

女２ 当たるわけないでしょ

女１ ちょっとぐらい夢見たっていいでしょ

女２ 人生ゲーム〔※４〕かよ。せめて自分の努力でどうにかなることを書け

女１ 厳しいな

女２ 「テレビロケをしているウドちゃん〔※５〕に遭遇。」お前、芸能人だったらもっと他に会いたい人いるだろ

女５ ウドちゃん会いたい

女１ 現実路線でしょ

女２ 中途半端なんだよ。ダメ。却下。やり直し

女１ せっかく書いたのに

女３ 「朝起きたら虎になっていた」

女２ 女３、何やってるの？

女３ おもしろい感じにしようと思って

女１ 勝手に書き直さないでよ

女２ 虎になるって『山月記』かよ

女１ それ実際にやるの私なんだよ

女３ 楽しみだな、女１が虎になるの

女１ 無理だよ

女５ わんこそばのギネス記録を更新

女１ それも無理だよ

女５ そう？　じゃあホットドッグ早食い

女１ だから無理だって

女５ 無理だ無理だって言ってたら何にもできないよ

女１ 無理なものは無理だよ

女３ 何ならなれるのかな？

女５ 何なら食べられるのかな？

女１ 何で実現不可能な方向へ行くのかな？

女３ プリキュア〔※６〕になれますように

女５ ケバブを全部食べられますように

女２ 女１がなるべくひどい目に遭いますように

女１ ちょっと

女２ 冗談だよ。よし、私達で日記を直してあげよう

女３ いいね

女１ いいの？

女２ 女１に任せてもおもしろくないし

女１ 私の日記だよ

女３ 大丈夫。私達に任せて

女１ すごく不安

女２ 女４、どう思う？

女４ 別に

【３】

 女４がいる。

女４ 中島敦『山月記』。〇〇高校の女１は博学才穎(はくがくさいえい)、令和〇年、若くして名をファーストフードのアルバイトに連ね、ついでバイトリーダーに補せられたが、性、狷介(けんかい)、自ら恃(たの)むところすこぶる厚く、バイトリーダーに甘んずるを潔(いさぎよ)しとしなかった。いくばくもなく官を退いた後は、故山(こざん)、池田山に帰臥(きが)し、人と交わりを絶って、ひたすら詩作にふけった。バイトリーダーとなって長くひざを俗悪(ぞくあく)な店長の前に屈するよりは、詩家としての名を死後百年に遺(のこ)そうとしたのである。しかし、文名(ぶんめい)は容易に揚(あ)がらず、生活は日を逐(お)うて苦しくなる。女１はようやく焦躁(しょうそう)にかられてきた。このころからその容貌も峭刻(しょうこく)となり、肉落ち骨秀で、眼光のみいたずらに炯々(けいけい)として、かつてアルバイトをしたころの豊頰(ほうきょう)の美少女のおもかげは、どこに求めようもない。数年の後、貧窮に堪(た)えず、自分の衣食のためについに節(せつ)を屈して、再び東へ赴き、ファミリーレストランのアルバイトの職を奉(ほう)ずることになった。一方、これは、己の詩業(しぎょう)に半ば絶望したためでもある。かつての同輩は既にはるか高位に進み、彼が昔、鈍物(どんぶつ)として歯牙(しが)にもかけなかったその連中の下命(かめい)を拝(はい)さねばならぬことが、往年(おうねん)の儁才(しゅんさい)女１の自尊心をいかに傷つけたかは、想像に難(かた)くない。彼女は怏々(おうおう)として楽しまず、狂悖(きょうはい)の性(せい)はいよいよ抑えがたくなった。一年の後、公用で旅に出、揖斐川のほとりに宿った時、ついに発狂した。ある夜半、急に顔色を変えて寝床から起き上がると、何かわけのわからぬことを叫びつつそのまま下に飛び下りて、闇の中へ駆け出した。彼女は二度と戻って来なかった。付近の山野を捜索しても、なんの手がかりもない。その後女１がどうなったかを知る者は、だれもなかった

 女２・女６、登場。

女６ この辺りには人食い虎が出ます

女２ そうなんですか

女６ 夜に出ます

女２ そうなんですか

女６ 朝にならないと出発できません

女２ いや、もう出発します

女６ え、もう出発するんですか？

女２ はい

女６ まだ太陽が出ていません

女２ はい

女６ このままでは虎に食べられてしまいます

女２ 大丈夫です

女６ 大丈夫なんですか？

女２ 大丈夫です。行きましょう

女６ 分かりました

 女１、登場。

女１ がおー

女６ うわあ

女１ がぶ。むしゃむしゃ

 女１は女６を食べる。

女２ 食べられた

女６ だから言ったのに

 女６、退場。

女１ がおー。あ、まずい

女２ え？

女１ 危ないところだった、危ないところだった

女２ その声は、我が友、女１ではないか

女１ そう言うお前は女２

女２ 久し振り

女１ うん、久し振り

女２ 元気？

女１ うん。そっちは？

女２ 私も元気だよ

女１ 今、何してるの？

女２ 高校生

女１ 普通だね

女２ 女１は？

女１ 私ね、虎になったの

女２ 虎？

女１ うん、虎

女２ 何で？

女１ 分かんない

 女５、登場。

女５ フランツ・カフカ『変身』。ある日、目が覚めたら虫になっていた私の話

女１ 女５

女５ 女１、どうしたの？

女１ 虎になったの

女５ 虎？

女１ うん、虎

女５ へえー、虎になったんだ

女１ 女５は？

女５ 虫

女１ 虫？

女５ うん、虫

女１ 何の虫？

女５ 分かんない

女２ 何で虫になったの？

女５ 分かんない

 女３、登場。

女３ 安部公房『棒になった男』。ある日、目が覚めたら棒になっていた私の話

女１ 女３

女３ 女１、どうしたの？

女１ 虎になったの

女３ 虎？

女１ うん、虎

女３ へえー、虎になったんだ

女１ 女３は？

女３ 棒

女１ 棒？

女３ うん、棒

女２ 生き物ですらないの？

女３ 生き物ですらないね

女５ 女２は？

女２ え？

女５ 何になったの？

女２ 何にもなってないよ

女５ 何で？

女２ え？

女１ 私が虎で

女５ 私が虫で

女３ 私は棒になったんだけど

女５ 女２は何にもなってないの？

女２ これは私が悪いのか？

女１ 女２も新しい自分になりたいでしょ？

女２ そういう新しさは求めてない

女１ 新たな性癖に目覚めるかもしれないよ

女２ 新たな性癖も求めてない

女３ 李徴（りちょう）と袁傪（えんさん）のＢＬ設定ってどう思う？

女２ どうも思わない

女１ 女４、どう思う？

女４ いいと思う

女２ いいんだ

女３ じゃあ先生とＫのＢＬ設定はどう思う？

女２ 先生とＫって夏目漱石の『こころ』でしょ

女５ 「精神的に向上心のないものはばかだ」

女３ あの二人がくっつけば全部丸く収まると思うんだよね

女２ そしたら話変わっちゃうでしょ。お嬢さんはどうするの

女５ 「僕はばかだ」

女３ お嬢さんは先生と結婚しても幸せになれないから、最初からくっつかない方がいいんだよ

女２ それはそうかもしれないけど

女５ 「奥さん、お嬢さんを私にください」

女２ 女５、うるさい

女１ 少なくともＫは絶対先生のことが好きだよね

女２ そっちの話を広げるの？

女３ でも先生の本心を知ったら蛙化するんじゃない？

女５ 蛙化？

女１ そうだよね。実は騙されてたって知ったら蛙化するよね

女５ 蛙化って何？

女３ 蛙化現象って知らない？　好きな人の嫌な面を見つけて幻滅するの

女５ 何で蛙化？

女３ 何で？

女４ グリム童話の『かえるの王さま』からきてるんだと思う

女５ どんな話？

女４ 蛙が王女様に恩を売って王女様に近付くんだけど、王女様は蛙が生理的に無理で、王女様が蛙を投げ飛ばすと蛙の魔法が解けて王子様に戻って、２人は結婚するっていう話

女５ 変な話

女１ それが蛙化現象の元なの？　逆じゃない？

女３ 逆ってどういうこと？

女２ 嫌いだった人を好きになるってこと？

女５ いや、王子は好きだけど、蛙になったから嫌いってことじゃないの？

女２ でも出会ったときから蛙だよ

女３ 蛙かわいそう

女１ むしろ蛙が王女様に幻滅だよね

女２ 投げ飛ばされたからね

女５ 結局どういうこと？　蛙になると嫌われるってこと？

女２ それはそうじゃない？

女３ 恋は盲目って言うけど

女５ それは嘘

女１ 恋愛は見た目じゃないっていうのは

女５ それも嘘

女２ 金の切れ目が縁の切れ目っていうのは？

女５ それは本当

女１ 世知辛い

女３ 私は、私のことを大切にしてくれるなら蛙でもいい

女２ 何、いきなり

女３ いつか王子様になってくれるなら今は蛙でもいい

女５ でも王子様になる蛙か、ただの蛙かは分からないでしょ

女２ 女４、どう思う？

女４ 相手にも選ぶ権利がある

女２ 世知辛い

女１ ちょっと待って。日記はどこ行ったの？

女３ 今のが日記だよ

女１ 無理があるでしょ。虎になったり虫になったり棒になったり

女２ 読書感想文のための本をみんなで読んだっていう話だよ

女１ へえ

女２ 『山月記』の影響を受けて詩人を目指して、シンガーソングライターになって、『こころ』のＢＬ設定を歌にしてＴｉｋＴｏｋでバズって、アイドルデビューするの

女１ へえ

女２ 女４、どう思う？

女４ いいと思う

女１ いいんだ

【４】

 女１・女６（母）、登場。

女６ 女１、マヨネーズ買ってきて

女１ えー

女６ あとついでに醤油と味噌と牛乳

女１ ついでが重いよ

女６ よろしくね

 女６、退場。

女１ 私には幼馴染の男の子がいて、近所に住んでて、よく一緒に遊んでた。というかいつも喧嘩してた。私のことをいつもブス、ブスって言ってくる、嫌な奴だと思ってた。私はその子のことをチビ、チビっていつもバカにしてた。そうやって悪口を言い合ってたんだけど、中学の終わり頃からあんまり話さなくなって、同じ高校に入学して、今も同じクラスだけど、全然話さなくなった。その子に今日、偶然会った

 女２（男１）、登場。女６（犬））を連れている。

女２ よ

女１ よ

女２ 何してんの？

女１ マヨネーズと醤油と味噌と牛乳買いに行くの

女２ ふーん

女１ そっちは？

女２ 犬の散歩

女１ よ

女６ よ

女２ こら、犬はワンだろ

女６ ワン

女１ 何か、喋るの久し振り

女２ そうか？

女１ もうブスって言わないの？

女２ 何だよそれ

女１ 昔はよくブスって言ってたじゃない

女２ 覚えてないよ

女１ もうチビって言えなくなっちゃったね

女２ なあ

女１ 何？

女２ 明日、花火大会があるだろ

女１ うん

女２ 一緒に行かないか？

女１ え？

女２ 嫌ならいいけど

女１ いいよ

女２ いいの？

女１ いいよ

女２ じゃあ、明日の６時に、待ち合わせ場所どこにしよう

女１ ここでいいよ

女２ ここでいいの？

女１ うん

女２ じゃあ、明日の６時に、ここで

女１ 明日の６時に、ここで

女２ じゃ

女１ じゃ

 女２・女６、退場。

女１ 次の日、私は花火大会に行った。おばあちゃんが浴衣を着せてくれた

 女６（祖母）、登場。女１に浴衣を着せる。

女６ ほら、できた

女１ ちょっと雑じゃない？

女６ かわいいね

女１ そう？

女６ デートでしょ。楽しんでおいで

女１ そんなんじゃないよ

女６ ほら、お小遣いもあげるよ

女１ ありがとう

女６ 屋台でたこ焼きとかわたあめとかお面とか買うといいよ

女１ うん

女６ 私はケバブが食べたいから買ってきてね

女１ おばあちゃん、肉食だね

女６ 行ってらっしゃい

女１ 行ってきます

 女６、退場。

 女２（男１）、登場。

女２ よ

女１ よ

女２ 浴衣なんだ

女１ おばあちゃんが着せてくれたの

女２ ふーん

女１ どう？

女２ いいんじゃない？

女１ そっか

女２ もうブスなんて言えるわけないだろ

女１ 何て言った？

女２ 何でもないよ。行くぞ

女１ うん

 二人は歩き出す。

女１ 本当は何て言ったか分かってる。もうブスって言わないんだったら、私のこと何て呼ぶんだろう。私のこと名前で呼んでくれるのかな。昔からお互い呼び捨てで、私は彼のことを男１って呼んでて、心の中で彼って呼んだ途端に恥ずかしくなって、彼が私のことを女１って呼んでくれるのを想像してまた恥ずかしくなって、心の中で何度も繰り返し彼のことを彼と呼んだ

 花火が上がる。

女１ 花火に照らされる彼の横顔、彼の息遣い。彼の顔を見たら、彼もこっちを見て、目が合って、それで

 女３～５、登場。

女３ きゃー

女２ これからどうなるの？

女３ チューするでしょ。絶対チューするでしょ

女１ しないよ

女３ するよ。するに決まってるでしょ。いいな、私もチューしたい

女２ したらいいじゃない

女３ 私、幼馴染っていないんだよね

女１ 私と男１はそういうのじゃない

女３ 男１って呼んでる。いいなー

女２ そういうのじゃないと思っていても

女３ ある日突然、異性として意識するようになり

女２ 女４、どう思う？

女４ 破廉恥

女３ きゃー

女１ ちょっと待って

女２ 何？

女１ これ、本当に起こるの？

女２ そうだよ

女３ 未来日記だからね

女１ やばい

女２ 何がやばいの？

女１ 無理無理無理無理

女３ 無理じゃないよ。最高だよ

女１ ダメ。却下。消そう

女３ 消しちゃダメ

女１ 絶対こんな風にならないって

女２ そういう風になるようにするんでしょ

女１ 何で女２はその気になってるの？

女２ 折角やるならおもしろい方がいいでしょ

女１ 人の人生おもしろがってんじゃないよ

女２ 協力してあげてるんだからおもしろさを提供しろよ

女３ この後どうする？

女２ チューするでしょ

女３ どこにする？　唇、ホッペ、おでこ、どれがいい？

女１ 唇はナシ

女２ 唇で

女１ 女２

女２ 頑張れよ

女３ 男１君はそういう根性ありそう？

女１ ない

女２ 男だろ、大丈夫だよ

女１ 大丈夫じゃない

女３ でもいきなり唇ってちょっと進みすぎじゃない？

女２ じゃあどうする？

女３ おでこがいいんじゃない？　かわいいよ

女２ じゃあおでこね

女１ 私の意志が無視されて物事が進んでいく

女３ あとね、壁ドンしたい

女１ 壁ドン

女３ 壁ドン、好き？

女１ 壁ドン、好き

女２ 壁ドン、好きなんだ

女３ 壁ドン、顎クイ、頭ポンポン、からのバックハグ

女１ きゃー

女３ フルコンボだドン。ワーイだドン

女２ 太鼓の達人か〔※７〕

女５ 壁ドン、突っ張り、ぶちかまし。バックハグからのジャーマンスープレックス

女２ 相撲からのプロレス

女１ 大丈夫かな、私の日記

女３ 大丈夫。次に行こう

【５】

 女１～５が歩いている。

女１ 恩田陸の『夜のピクニック』という小説を読んだ。高校の歩行祭という行事で８０キロを夜通し歩くという話だった。おもしろかったから私もやってみることにした

女２ そういう肉体的につらいことを設定するのはやめていただきたい

女１ 楽しそうだよ

女３ つらい

女１ 最後はみんなで走り出すんだよ

女２ バカじゃないの

女５ お腹空いた

女２ どこまで歩くの？

女１ 海まで行って帰って来る

女３ 海ってどこの海？

女１ ナガシマスパーランド

女３ おー

女１ 時速４キロで歩くと１０時間で４０キロ、８０キロ歩くには２０時間かかる

女２ それ、休憩時間は別だよね

女１ そう。だから休憩込みで２４時間歩く

女２ バカじゃないの？

女３ でも何か楽しくなってきた

女１ でしょ

女２ 本当に？

女１ ランナーズハイみたいになってさ、ドーパミンが出てさ

女５ ドーパミンって何？

女４ 神経伝達物質のひとつで、やる気や幸福感が得られる。ちなみにランナーズハイで出てくるのはベータエンドルフィン

女５ あんまりおいしくなさそう

女３ おいしそうな物って何？

女５ 食べられる物

女２ 幅広いな

女３ 世界が滅亡する前の最後の晩餐で食べたい物って何？

女５ 〇〇〇〇

みんな （コメント）

女３ 〇〇〇〇

みんな （コメント）

女１ 〇〇〇〇

みんな （コメント）

女２ 〇〇〇〇

みんな （コメント）

女２ 女４は？

女４ 〇〇〇〇

みんな （コメント）

女２ 本当に２４時間歩くの？

女１ 本当はお昼の１２時に出発して、次の日の正午までと思ってたんだけど、さすがにつらいから一晩にしよう

女３ 夕方６時集合だったもんね

女２ それでも一晩って、朝６時までで１２時間か

女５ お腹空くな

女３ 海まで歩いて、ナガシマで遊んで帰って来たらいいんじゃない？

女２ 元気だな

女１ そんなことを言いながら私達は歩き出しました。海まで４０キロ以上あるけど、４０キロなら歩けないこともない気がするし、人類は４０キロを２時間で走れるんだから、１２時間あれば私達だって行けるんじゃないかと思う。最初はみんな元気で、喋りながら歩いてたけど、だんだん口数が少なくなって、午前０時を過ぎて、ちょっとだけ肌寒くなって、でもアスファルトは温かくて、休憩するときは小説に書いてあった通りに靴と靴下を脱いで、足を乾かしてマッサージして、絆創膏も貼って、それでも足が痛くて、もう歩きたくなくて、誰かがもうやめようって言い出すのを待ってて、でも誰も言い出さなくて、ずっと歩いて。午前２時でも時々車は走ってて、川の向こう岸に歩いてる人がいて、幽霊なんじゃないかとか考えて、午前３時におやつの時間だねって冗談言っておやつを食べて、また無言で歩いて、みんな無言で歩いて、長良川河口堰で記念撮影して、朝になって、海に着いた。ナガシマスパーランドは静かで、ジェットコースターのレールが光って見えて、それで私達の歩行祭はおしまい。遊園地で遊ぶ元気はないから電車に乗って家に帰る、と思う。こういう想像を日記に書いて、でもきっとそんなことしないよねって話して、私達の想像は実現しないままどっかに消えちゃうのかもしれないけど、ひょっとしたら本当に実現する世界がどこかにあるのかもしれない。こうして私の夏休みは続くのでした

【６】

 女３、登場。

女３ これから私の夏休みの話をします。私の夏休みは毎年あるけど、高校２年生の夏休みは人生で１回しかないわけで、一生に１度の記念すべき夏休みを私は一体どんな風に過ごしたのかというと、という感じで話し始めると、さぞかしメモリアルなバケーションだったのだろうと思うかもしれないけど、別にそういうわけではないかもしれないわけで、だって夏休みは毎年あるし、毎年そんな特別なことがあるわけじゃないし、何なら小学生の頃の方が初めての体験が多くて思い出に残る特別な夏休みだったりするわけで、今更高校２年生の夏休みにスペシャルな何かを期待しても、それは今更手遅れというか、それを期待するには日頃の行いが足りないというか、心がけ次第というか、待ってないで自らムーブメントを起こさなきゃいけないってことは分かってるつもりなんだけど、だから、明日から始まる夏休みに私は少しだけ期待することにした。スペシャルな何かを期待するんじゃなくて、動き出す私自身に期待する、という心がけ。そう、私の高校２年生の夏休みは、これから始まる。こうやって物語を語るときは、既に起こったことを語るのが普通で、でも私はまだ起こってないことを語ろうとしていて、まだ起こってないことを語るなんて、これは画期的だと自画自賛して、まだ起こってないことを語る矛盾には目を瞑って、夜も更けていくのに目をぱっちり開いて、私はムーブメントを起こそうとしている。「未（いま）だ来（き）たらず」と書いて「未来」と読む。でも私はその、まだ来ない不確定な未来の中身を確定させるという画期的な方法を思いついてしまった。それは、未来に起こることをあらかじめ日記に書いておくという、未来日記という方法。もちろんマンガや小説みたいに、書いたらその通りになんかなるわけじゃない。だから、日記に書いた通りに私が行動すればオッケー。これがうまくいくかどうかは分からないし、多分うまくいかないと思うし、だったらそんなことするなよって思うかもしれないけど、結果じゃなくて過程が大事なのであって、トライしたという事実が大事なのであって、それもまたいい思い出というか、頑張った自分をほめてあげたいというか、まだ始まってもないのに何言ってんだって感じで、捕らぬ狸の皮算用で鼎（かなえ）の軽重（けいちょう）を問うてみたりみなかったり。つまり私の計画とは、シュレーディンガーな未来をあえてあらかじめ定めることで一体何が起こるのかという実験的なものであり、スペシャルな何かを目指した私の精一杯のムーブメントなのだと思う。というわけで、私の夏休み、始まり

【７】

 女３の部屋。

 女２～５がいる。

女３ 今日から夏休みが始まりました

女５ いえーい

女２ 暑ーい

女３ 高校２年生の夏休みは人生で１回だけ

女２ そうだね

女３ 一生に１度しかない夏休みを特別な体験に

女５ そうだね

女２ テーマパークのＣＭみたい

女３ 特別な夏休みを最高の思い出にしよう

女５ おー

女３ スペシャルなメモリアルを

女５ おー

女２ 何でそんなに盛り上がってるの？

女３ 今年の夏休みは一味違う

女５ どんな味なの？

女２ どんな質問だよ

女３ 甘酸っぱい青春の味

女５ 甘辛い八丁味噌の味

女２ そんな青春いらねえよ

女３ 今年の私は一味違う

女５ どんな味？

女２ もうその質問をするな

女３ 夏休みの宿題は最初に終わらせる

女２ え？

女５ え？

女３ 何？

女５ 女３、去年は全然宿題なんかやらなかったじゃない

女３ それはもう過去の私

女５ 女３、追い込まれた方が宿題が捗るって言ってたじゃない

女２ 言ってた

女５ 女３、追い込まれるのが快感だって、宿題は最終日にやるべきだって言ってたじゃない

女３ そんなこと言ってないよ

女２ 言ってたよ

女３ そんなの、私がドＭの変態みたいじゃない

女５ それが女３のいいところでしょ

女３ そうなの？　「あなたの長所は何ですか？」「私の長所はマゾヒスティックなところです。」って言うのちょっと恥ずかしいんだけど

女２ ちょっと待って

女３ 何？

女２ この会話、したことある気がする

女３ 何言ってるの？

女２ 夏休みの初日にみんなで集まって、女１の部屋で

女５ 女１って誰？

女２ 誰だっけ？

女３ 大丈夫？

女２ あれ？

女５ で、女３はどうして宿題やる気になったの？

女３ 宿題を先に終わらせたら、残りの夏休みは何の心配もなく全力で遊べるじゃない。それに、あわててやるより計画的に取り組んだ方が学習効果も高まるんだよ

女２ 正しいことを言われてるだけなのに、すげえ腹立つ

女５ 正論は人を傷つけるから

女２ ま、いいや。今年は女３の宿題を手伝わなくていいってことだよね。ん？

女３ え？　女２、宿題は手伝うんだよ？

女２ 私、去年も宿題手伝ったっけ？

女３ 手伝ってくれたよ

女２ 去年は女１の宿題を

女５ だから女１って誰？

女２ 誰だろう

女３ そんなわけで、私はもう、１つ目の宿題を終わらせました

女２ え、もう？

女５ 早い

女２ 何やったの？

女３ 日記

女５ 日記？

女３ 夏休みの日記

女２ ちょっと待って

女３ 何？

女２ 確かに、夏休みの日記っていう宿題はあるよ。小学生かよって思うけど、先生に「生活の乱れは心の乱れです。毎日の生活記録をつけなさい。」って言われたよ。でも、日記というのは、その日にあったことを記録するものであって、先にやるものではない

女３ じゃあ、いつやるの？

女２ 毎日

女３ 私、そういうの向いてない

女２ 向いてないって何だよ

女３ できないの。やりたくないの。だから最終日に、夏休みにあったことを全部思い出して、思い出せないところは適当に捏造して架空の日記を作成した去年の反省を生かして、今年は先に捏造することにしたの

女２ 日記を捏造するな

女５ さすが女３だね。普通の人にはできない発想だよ

女３ すごいでしょ

女２ 事実と違っちゃうでしょ

女３ 大丈夫。その通りに行動すればいいんだから

女２ え？

女３ 日記に書いたとおりに毎日を過ごせばいいんだよ

女２ それはそう、なのか？

女５ 未来日記だね

女２ 女４、どう思う？

女４ 別に

女２ 女４、淡泊だな

女４ うん

女５ 女３、どんなこと書いたの？

女３ え？

女５ 誰かと恋に落ちるとか書いたの？

女３ 書いてないよ

女５ 何で書いてないの？

女３ そういうのはいいよ

女５ ラブロマンスは？

女３ 女５、そういうの好きなの？

女５ 女３は？

女３ 好き

女２ 実現できることを書かなきゃダメなんじゃない？

女５ それを頑張って実現するんだよ。ね？

女３ うん、頑張る。頑張って私の夢を実現する

女２ 女４、どう思う？

女４ 別に

【８】

 女３、登場。

女３ 私には好きな人がいる。同じクラスの男１君。憧れて、遠くから見てるだけで、話しかける勇気はなくて、でもいつまでもこのままでいるのは嫌で、こうして彼の家の近くをうろうろしている。本当は夏休みに入る前に、一緒に出掛ける約束をしたかったんだけど、声をかけられないまま夏休みになっちゃった。学校がないと会えない。男１君に会えるなら授業だってちゃんと出る。男１君に会えない夏休みはつまんない。でもこうやって家の近くをうろうろしてたらストーカーだって思われるかな。いや、実際ストーカーなんだけど。そもそも何で家の場所を知ってるんだよって話なんだけど、それは友達の友達からたまたま聞いただけで、別に調べたわけじゃなくて、今だってこの辺りを散歩してるだけで、家に押し掛けるわけじゃないし、偶然会えたらいいなって思ってるだけで

 女５（男１）、登場。

女５ あれ？　女３さん？

女３ 男１君？

女５ どうしたの？

女３ 散歩

女５ 散歩？　そう。俺も

女３ 男１君も？

女５ ああ、これ、うちの犬

女３ こんにちは

女６ こんにちは

女５ こら、犬はワンだろ

女６ ワン

女３ 何て名前？

女５ 〇〇〇

女３ 何歳？

女５ １０歳ぐらい

女３ おばあちゃんだね

女６ まだあんたより若いよ

女５ なあ

女３ 何？

女５ 明日、花火大会があるだろ

女３ うん

女５ 一緒に行かないか？

女３ え？

女５ 嫌ならいいけど

女３ いいよ

女５ いいの？

女３ いいよ

女５ じゃあ、明日の６時に、待ち合わせ場所どこにしよう

女３ ここでいいよ

女５ ここでいいの？

女３ うん

女５ じゃあ、明日の６時に、ここで

女３ 明日の６時に、ここで

女５ じゃ

女３ じゃ

 女５・女６、退場。

女３ 次の日、私は花火大会に行った。おばあちゃんが浴衣を着せてくれた

 女６（祖母）、登場。女３に浴衣を着せる。

女６ ほら、できた

女３ ちょっと雑じゃない？

女６ かわいいね

女３ そう？

女６ デートでしょ。楽しんでおいで

女３ そんなんじゃないよ

女６ ほら、お小遣いもあげるよ

女３ ありがとう

女６ 屋台でたこ焼きとかわたあめとかお面とか買うといいよ

女３ うん

女６ 私はケバブが食べたいから買ってきてね

女３ おばあちゃん、肉食だね

女６ 行ってらっしゃい

女３ 行ってきます

 女６、退場。

 女５（男１）、登場。

女５ 待った？

女３ 今来たとこ

女５ 浴衣なんだ

女３ おばあちゃんが着せてくれたの

女５ 似合うよ

女３ ありがとう

女５ じゃあ行こっか

女３ うん

 ２人は歩き出す。

女３ 手を繋いでくれるのかと思ったけど、そうじゃなかった。男１君は私の少し前を歩いて、私は男１君の背中を見ながら歩いて、恥ずかしくて何も言えなくて、男１君も黙っていて。どうして私を誘ってくれたんだろう。嬉しくて考えてなかった。「どうして誘ってくれたの？」気がついたら声が出てた

女５ 本当は夏休みに入る前に誘うつもりだったんだけど、声をかけそびれて夏休みになっちゃった。諦めてたんだけど、偶然会えたから、奇跡だと思って、声をかけた

女３ 偶然じゃないよ

女５ え？

女３ 男１君に会いたくて、歩いてたの

女５ そうなの？

女３ 私も奇跡だと思った

女５ 手、繋いでいい？

女３ うん

 ２人は手を繋ぐ。

 花火が上がる。

女３ 花火に照らされる彼の横顔、彼の息遣い。彼の顔を見たら、彼もこっちを見て、目が合って、それで

 女２、登場。

女２ という女３の日記を読んだ

 女３・女５、退場。

女２ 妄想が暴走している他人の日記を読んでいるとこっちが恥ずかしくなってくる。そんな都合良く物事は進まないと思うけど、未来は不確定だから、本当にそうなる確率もゼロではないのかもしれないけど、それはさておき、この日記を読むと違和感がある。モヤモヤする。何か違う。何が違うんだろう

 女４、登場。

女２ 女４、どう思う？

女４ 別に

女２ そもそも未来日記を書いてたのは女３じゃなかったと思うんだよね

女４ そうだよ

女２ そうなの？

女４ そうだよ

女２ 自分で言って自分で驚いちゃった。本当に？

女４ 本当に

女２ じゃあ誰が日記書いてたの？

女４ 女１

女２ 女１？

女４ そう

女２ 同じクラスの？

女４ そう

女２ 何で？

女４ それ、どういう質問？

女２ 女１って話したことないんだけど

女４ この世界ではそう

女２ この世界では？

女４ 前の世界では女２と女１は仲良かった

女２ 前の世界？

女４ 前の世界のこと覚えてる？

女２ 覚えてない

女４ だよね

女２ 前の世界って何？

女４ 元々、未来日記を発案したのは女１

女２ 前の世界って何？

女４ それが、この世界では未来日記を書くのが女３になってる

女２ 前の世界って何？

女４ ただしこれは歴史の改変ではない

女２ 同じ質問を３回もしたんだけど

女４ この世界も前の世界も、無数にある平行世界のひとつ

女２ パラレルワールドというやつですか？

女４ だから女１の妄想の数だけ平行世界は存在するし、女２のツッコミの数だけ平行世界は存在する

女２ 私が世界を生み出している

女４ 時間は不可逆で未来は不確定だけど、誰かが意図的に未来を確定しようとしてる

女２ 誰が？

女４ まだ分からない

女２ 元々、女１が未来日記を書いてたんだから、女１が未来を確定させようとしてるんじゃないの？

女４ 女１がやってるのは、嘘から出た真（まこと）が何回続くかっていう確率の問題で、未来を確定させてるわけではない

女２ じゃあ女３は？

女４ 女３も同じ

女２ 私はどうしたらいいの？

女４ 女２がどうしたいかによる

女２ 女１の日記を見せて

女４ いいよ

女２ 私は女１のことを思い出さなきゃいけない気がする

女４ 頑張って

女２ ところでさ

女４ 何？

女２ 女４は何者なの？

女４ 内緒

【９】

 女１・女６（母）、登場。

女６ 女１、マヨネーズ買ってきて

女１ えー

女６ あとついでに醤油と味噌と牛乳

女１ ついでが重いよ

女６ よろしくね

 女６、退場。

女１ 私には幼馴染の男の子がいて、近所に住んでて、よく一緒に遊んでた。というかいつも喧嘩してた。私のことをいつもブス、ブスって言ってくる、嫌な奴だと思ってた。私はその子のことをチビ、チビっていつもバカにしてた。そうやって悪口を言い合ってたんだけど、中学の終わり頃からあんまり話さなくなって、同じ高校に入学して、今も同じクラスだけど、全然話さなくなった。その子に今日、偶然会った

 女２（男１）、登場。女６（犬））を連れている。

女２ 思い出した。女１だ

女１ 思い出したって何？　忘れてたの？

女２ 忘れてた。あ、違う、私、今、男１だ

女１ 何言ってるの？

女２ よ

女１ よ

女２ 何してんの？

女１ マヨネーズと醤油と味噌と牛乳買いに行くの

女２ ふーん

女１ そっちは？

女２ 犬の散歩

女１ よ

女６ よ

女２ こら、犬はワンだろ

女６ ワン

女１ 何か、喋るの久し振り

女２ そうか？

女１ もうブスって言わないの？

女２ 何だよそれ

女１ 昔はよくブスって言ってたじゃない

女２ 覚えてないよ

女１ もうチビって言えなくなっちゃったね

 女３・女５（男１）、登場。

女５ あれ？　女３さん？

女３ 男１君？

女５ どうしたの？

女３ 散歩

女５ 散歩？　そう。俺も

女３ 男１君も？

女５ ああ、これ、うちの犬

女３ こんにちは

女６ こんにちは

女５ こら、犬はワンだろ

女６ ワン

女３ 何て名前？

女５ 〇〇〇

女３ 何歳？

女５ １０歳ぐらい

女３ おばあちゃんだね

女６ まだあんたより若いよ

女２ 女３が出てきて、日記の内容が変わっていく

女２・５ なあ

女１・３ 何？

女２・５ 明日、花火大会があるだろ

女１・３ うん

女２・５ 一緒に行かないか？

女１・３ え？

女２・５ 嫌ならいいけど

女１・３ いいよ

女２・５ いいの？

女１・３ いいよ

女２・５ じゃあ、明日の６時に、待ち合わせ場所どこにしよう

女１・３ ここでいいよ

女２・５ ここでいいの？

女１・３ うん

女２・５ じゃあ、明日の６時に、ここで

女１・３ 明日の６時に、ここで

女２・５ じゃ

女１・３ じゃ

 女１・３・５・６、退場。

 女４、登場。

女２ 中途半端にリンクしてて気持ち悪い

女４ ２つの日記が対立してて不安定

女２ 男１はどっちが好きなの？

女４ どっちも好き

女２ はっきりしろよ

女４ あらゆる可能性がある

女２ これ、どうしたらいいの？

女４ どうしたいの？

女２ 分かんない

女４ 日記を書き換えて

女２ 私が？

女４ そう。一番良い未来になるように

女２ 責任重大だね

 女１・女６（犬）、登場。

女２ よ

女１ よ

女２ 何してんの？

女１ マヨネーズと醤油と味噌と牛乳買いに行くの

女２ ふーん

女１ そっちは？

女２ 犬の散歩

女１ よ

女６ よ

女２ こら、犬はワンだろ

女６ ワン

女１ 何か、喋るの久し振り

女２ そうか？

女１ もうブスって言わないの？

女２ 何だよそれ

女１ 昔はよくブスって言ってたじゃない

女２ 覚えてないよ

女１ もうチビって言えなくなっちゃったね

 女３・女５（男１）、登場。

女５ あれ？　女３さん？

女３ 男１君？

女５ どうしたの？

女３ 散歩

女５ 散歩？　そう。俺も

女３ 男１君も？

女５ ああ、これ、うちの犬

女３ こんにちは

女６ こんにちは

女５ こら、犬はワンだろ

女６ ワン

女３ 何て名前？

女５ 〇〇〇

女３ 何歳？

女５ １０歳ぐらい

女３ おばあちゃんだね

女６ まだあんたより若いよ

女１ じゃあ私、買い物があるから

女２ あれ？

女５ ああ、またな

女２ あれ？

 女１、退場。

女３ 今の、女１さん？

女５ うん

女３ 仲良いの？

女５ 幼馴染なんだ

女３ ふーん

女５ なあ

女３ 何？

女５ 明日、花火大会があるだろ

女３ うん

女５ 一緒に行かないか？

女３ え？

女５ 嫌ならいいけど

女３ 行かない

女５ え？

女３ やめとく

女５ あれ？

女３ またね

女５ あれ？

女２ あれ？

 女３、退場。

女５ 何で？

女２ 女５、何をしようとしてるの？

女５ 私は女３の恋がうまくいくようにしようと

女２ ひょっとして、女１がいなくなったのって女５のせいなの？

女５ 結果的にはそうなる

女２ 何でそんなことするの？

女５ ちょっと待って。誤解されたくないんだけど、元の世界では女１と男１がうまくいってるんだよ

女２ え？

女５ これは別の世界の話。女３がうまくいく世界があったっていいでしょ

女２ 女５も元の世界のこと知ってるの？

女５ うん

女２ 私を元の世界に帰して

女５ そこが不思議なんだけど。普通、別の世界の記憶はないはずなんだよね

女４ うん

女５ でも、女２は２つの世界とリンクしてる

女２ どういうこと？

女５ 女２が女１のことを覚えてるのがおかしいんだ

女２ そんなのおかしくない。友達だもん

女５ この世界では他人だよ

女２ 他人だけど、友達だもん

女５ 女１は女２のこと覚えてないよ

女２ 覚えてないけど、友達だもん

女５ 分かったよ。余計なことしない方がよかったね。ごめん

女２ まあ、悪気があったわけじゃないみたいだし、許してあげないこともない

女５ 女３もうまくいかなかったし、あれ、何でなんだろう

女４ 本人に聞いてみたら？

 女３、登場。

女２ 女３

女３ これはね、蛙化現象だと思う

女２ 蛙化現象？

女３ 急に気持ちが冷めたの

女２ どうして？

女３ 私は彼のこと好きだと思ってたんだけど

女２ だけど？

女３ 彼は私じゃない人を好きなんだよね

女２ うん

女３ そう気付いて、それで気持ちが冷めるなら、そういうことなんじゃないかな

女２ それでいいの？

女３ いい。今はね

女２ 今は？

女３ 未来は分かんないよ

女２ そうだね

女３ 女５、私はちゃんと自分で生きてるから、余計なことしなくていいよ

女５ ごめん

女３ でも、ありがとう。持つべきものは友達だね

女２ 私、女１と友達になりたい

女５ 元の世界に帰らないの？

女２ 帰ったら、この世界では女１と友達になれないままでしょ。それは嫌

女３ せっかくならイベントがあるといいよね

女２ イベント？

女４ 女１の日記にあったよ

みんな 歩行祭

【１０】

 女１が歩いている。

女１ 恩田陸の『夜のピクニック』という小説を読んだ。高校の歩行祭という行事で８０キロを夜通し歩くという話だった。おもしろかったから私もやってみることにした。そしたらクラスメイトに会った

 女２～５、登場。

女２ 女１さん

女１ はい

女２ 私、女２

女１ 知ってるよ

女２ 知ってる？

女１ クラスメイトだから

女２ 私と友達になってください

女１ どうしたの？　急に

女２ 海まで行くんでしょ？

女１ うん

女２ 私も行く

女３ 私も

女５ 私も

女１ どうして海に行くって知ってるの？

女２ 未来が確定しているからだよ

女１ 変なの

女２ でも本当はこういう肉体的につらいことを設定するのはやめていただきたい

女１ 楽しそうだよ

女３ つらい

女１ 最後はみんなで走り出すんだよ

女２ バカじゃないの

女５ お腹空いた

女２ どこまで歩くの？

女１ 海まで行って帰って来る

女３ 海ってどこの海？

女１ ナガシマスパーランド

女３ おー

女１ 時速４キロで歩くと１０時間で４０キロ、８０キロ歩くには２０時間かかる

女２ それ、休憩時間は別だよね

女１ そう。だから休憩込みで２４時間歩く

女２ バカじゃないの？

女３ でも何か楽しくなってきた

女１ でしょ

女２ 本当に？

女１ ランナーズハイみたいになってさ、ドーパミンが出てさ

女５ ドーパミンって何？

女４ 神経伝達物質のひとつで、やる気や幸福感が得られる。ちなみにランナーズハイで出てくるのはベータエンドルフィン

女５ あんまりおいしくなさそう

女３ おいしそうな物って何？

女５ 食べられる物

女２ 幅広いな

女３ 世界が滅亡する前の最後の晩餐で食べたい物って何？

女５ 〇〇〇〇

みんな （コメント）

女３ 〇〇〇〇

みんな （コメント）

女１ 〇〇〇〇

みんな （コメント）

女２ 〇〇〇〇

みんな （コメント）

女２ 女４は？

女４ 〇〇〇〇

みんな （コメント）

女２ 本当に２４時間歩くの？

女１ 本当はお昼の１２時に出発して、次の日の正午までと思ってたんだけど、さすがにつらいから一晩にしよう

女３ 夕方６時集合だったもんね

女２ それでも一晩って、朝６時までで１２時間か

女５ お腹空くな

女３ 海まで歩いて、ナガシマで遊んで帰って来たらいいんじゃない？

女２ 元気だな

 話しながら歩く。

女３ 今何時？

女２ １２時

女１ みんな大丈夫？

女２ まだ大丈夫

女３ 結構疲れたね

女５ お腹空いた

 無言で歩く。

女３ 今何時？

女２ ２時

女５ お腹空いた

女１ 女５、お腹空いたって言うけど、ずっと食べてるよね

女５ 食べなきゃお腹空くでしょ

女２ その食べ物はどこに収納してあるの？

女５ 四次元ポケットがあるから

女３ 本当に？

女５ 嘘だよ

女２ 謎だな

女１ あ

女２ 何？

女１ 誰かいる？

女２ 川の向こう？

女１ うん

女２ こんな時間でも人がいるんだね

女３ 幽霊なんじゃないの？

女１ え

女２ そんなわけないでしょ

女５ 向こうからしてみれば、私達が幽霊に見えるかもね

女１ え

女３ 確かに

女４ 一人ずつ減っていって、気が付いたら一人ぼっちになってる

女１ 女４、たまにしか喋らないのにそういうこと言わないでよ

女２ 怖いの？

女１ ちょっと怖い

 無言で歩く。

女３ 今何時？

女２ ３時

女１ おやつの時間だね

女５ おやつ食べよ

女３ 私も

女２ 本当にその食料はどこにしまってあるの？

女５ 世の中には知らない方がいいこともあるんだよ

女３ 世界の秘密みたいで格好良いね

女１ そんなに壮大な話なんだ

女３ あれ何？

女１ どれ？

女３ 何か変な丸いのがたくさん

女２ ああ、あれは多分

女４ 長良川河口堰

女１ 何それ

女３ 変なの

女５ おまんじゅうみたい

女２ 水害対策なんでしょ

女４ 塩水の遡上防止と、洪水の安全な流下のための施設

女１ 大事なんだ

女３ 写真撮ろう

女１ いいね

 ５人は集まってカメラを構える。

女２ これ入ってる？

女１ 入ってる入ってる

女５ ちょっと狭い

女３ 撮るよ。はい、おまんじゅう

 写真を撮る。

女１ 行こう

女２ うん

 無言で歩く。

女１ あれ

女２ 何？

女１ ジェットコースターのレールが見える

女２ 本当だ

女５ 着いた

女３ 今何時？

女２ ４時

女１ 着いた

女２ 疲れた

女３ 眠い

女５ お腹空いた

女１ もう朝だね

女２ 朝焼けだ

女３ 夕焼けみたいだね

女１ 帰ろうか

女２ え、帰るの？

女１ あ、でもまだ電車が動いてないか

女２ 遊んで行こうよ

女１ え？

女３ 遊園地開くの何時？

女４ ９時半

女５ まだ時間あるね

女２ じゃあ、それまで寝よう

女３ 賛成

女２ 女４、どう思う？

女４ いいと思う

女１ みんな元気だね

女２ せっかく来たんだから、楽しいことしようよ。友達になったばっかりだし

女１ そうだね

女２ それじゃ、おやすみ

みんな おやすみ

女１ 私、みんなとずっと前から友達だった気がする

女２ 私も

 終わり。

【参考】

アニメーション映画『涼宮ハルヒの消失』

小説『山月記』中島敦

小説『変身』フランツ・カフカ

小説『棒になった男』安部公房

小説『こころ』夏目漱石

グリム童話『かえるの王さま』

小説『夜のピクニック』恩田陸

※１ 井上陽水の楽曲「夢の中へ」の歌詞

※２ 「ペヤング」はまるか食品のカップやきそば

※３ きくちゆうきの漫画『１００日後に死ぬワニ』

※４ 「人生ゲーム」はボードゲーム

※５ お笑いタレントのウド鈴木

※６ プリキュアはテレビアニメの登場人物

※７ 「太鼓の達人」はバンダイナムコのゲーム